



佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施(4)

【概要】

令和 2 年 10 月 16 日(金)に、不登校支援機関の適応指導教室「くすの実」にて理工学部の教員と工学系研究科及び先進健康科学研究科の大学院生、理工学部機能物質化学科の学生らが本年度 4 回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である適応指導教室「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲の芽生えを目的に行なっています。

令和 2 年度の 4 回目は令和 2 年 10 月 16 日(金)に工学系研究科システム創成科学専攻と先進健康科学研究科先進健康科学専攻の大学院生と理工学部機能物質化学科の学部生が、「天然と人工!? いろいろな高分子を知ろう」と題して理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに行いました。

環境問題でプラスチック製レジ袋が有料となった中、高分子が私たちの暮らしを豊かにしていることに興味を持ってもらおうと、最初に熱可塑性樹脂と光硬化性樹脂を材料にして、好きな形のプラスチック製品を作る実験を行いました。また、樹脂の特性を活用した生活の中での用途について考えてもらいました。次に、高分子は小さな部品が長く繋がったようなもので、私たちの体の中でもタンパク質や DNA が高分子として存在することを説明したうえで、牛乳のタンパク質を沈殿させる実験やバナナやブロッコリーから DNA を抽出する実験を行いました。家庭で揃えられる食品や薬品を使って、天然の高分子であるタンパク質や DNA が目に見える形で出てくる様子に子ども達は興味深そうに観察し、実験を楽しんでいました。身の回りのものに着目して、科学に興味をもってけると嬉しいです。



「理科実験教室」の様子